

研究課題別事後評価結果

1. 研究課題名： コンテンツ共生社会のための類似度を可視化する情報環境の実現
2. 研究代表者名及び主たる研究参加者名（研究機関名・職名は研究参加期間終了時点）：

研究代表者

後藤 真孝（産業技術総合研究所情報技術研究部門 首席研究員）

主たる共同研究者

森島 繁生（早稲田大学理工学術院 教授）

中村 聡史（明治大学総合理数学部 准教授）

吉井 和佳（京都大学大学院情報学研究科 講師）

3. 事後評価結果

○評点：

A+ 非常に優れている

○総合評価コメント：

メディアコンテンツを豊かで健全に創作・利用する「コンテンツ共生社会」の実現をめざして、音楽を中心に、大規模なメディアコンテンツ間の類似度・ありがち度を可視化し、ユーザ主導の音楽鑑賞と創作を支援する情報環境の研究開発に取り組んだ。

その結果、Web 上の楽曲コンテンツの楽曲構造、コード、メロディ、ビート構造を自動解析する能動的音楽鑑賞サービス Songle、音楽コンテンツの関係性を可視化する音楽視聴支援サービス Songrium に代表される能動的音楽鑑賞支援技術、音楽に同期した歌詞アニメーション制作支援サービス TextAlive、マッシュアップ音楽創作支援サービス Songmash、ダンスアニメーション支援サービス Songroid に代表される音楽創作支援技術を開発するとともに、確率的生成モデルに基づく類似度とありがち度推定技術、統計的機械学習に基づく音楽理解技術など、基礎レベルでも顕著な成果を挙げた。さらに、研究プロジェクトを OngaCREST という一つの運動に発展させ、研究者だけでなく、コンテンツクリエイターをはじめとする音楽業界を巻き込み、大きな音楽イベントでも使われるほどの品質を有したプロダクトレベルの多数の成果の創出と共有を実現し、次世代メディアコンテンツ生態系技術の基盤構築と応用展開を目標とする次の ACCEL プロジェクトにつなげたことは特筆に値する。

これは当初の目標をはるかに上回るものであり、実用水準の共生型情報環境を実現、産業界への技術移転も進むなど、戦略目標達成に大きな貢献をした。日本学士院学術奨励賞をはじめとする、重要な賞を受賞したことに象徴されるように、学術にも大きなインパクトを与えたことは高く評価できる。

本研究を通して得られた「コピー不可能な体験を可能とする情報基盤」という観点や、オリジナリティの捉え方など創造全般に通じる洞察を今後の研究で一層深化・一般化させることを期待する。